

# 遠野型農業について



荒川 栄悦 議員  
(清風会)

**問** 平成22年度予算の編成時期であるが、編成方針の骨格は。

**答** 平成22年度は遠野市総合計画基本構想の前期基本計画の最終年度であり、これまでに展開した事業の仕上げと総括の年となることから、次の点に留意しながら編成しようとしている。健全財政5カ年計画、遠野市経営改革大綱集中改革プランを踏まえた行政のスリム化を行う。住民の福祉の増進に努めるとともに最小の経費で最大

の効果を上げるため、「歳入の精査と歳出の選択と集中」に取組む。私のモットーである「公平・公正・公開」の基本姿勢のもと市民の協力のもと創意と工夫で最大の行政効果が得られるようにする。「永遠の日本」のふるさと「遠野」の実現に向けて平成23年度からの後期基本計画及び健全財政5カ年計画の策定に着手する。また、前年度比1%減の約2千万円程度の経常経費の削減を図る。政府予算の編成動向もあり、予算の提示が遅れるかもしれないが、おおよそ160億円から170億円になると思う。

**問** 遠野型農業による農業振興は。

**答** 市の堆肥センターを利用した実証試験の結果について、普及サブセンターの協力を得ながら分析中である。1年目ながら、水稲の実証田では0.8俵程の減収だったが、反面化学肥料等の経費と比較すると4分の1以下で賄えたことから全体の収益はほぼ同等と考えられる。ここに、遠野だからこそ出来る耕畜連携・循環型農業・環境保全型農業の可能性が見えてきており、特色ある遠野型農業の確立を推進して消費者にアピールしていきたい。更に、以上の考えを取り入れながら、遠野市農林水産ビジョンを平成

21年度中に策定する予定である。このビジョンは、6年の計画期間を設け、後期基本計画と同調させ長期にわたり農業振興を図ろうとするものである。ここには消費者の視点も入れながら、ワーキンググループに20代・30代の若者の参画も進め、計画策定のプロセスを大事にして意見・提言を受け合意形成を図りたい。



特色ある遠野型農業の確立を